

Title	持続的競争優位の源泉としての企業家精神強度に関する実証研究 - 日韓総合商社の比較分析を中心に -
Sub Title	
Author	安, 城楽(An, Sonraku) 奥村, 昭博
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2005
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2005年度経営学 第2022号 不可
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002005-2022">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002005-2022</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 論文要旨

所属ゼミ	奥村 研究会	学籍番号	80430092	氏名	安 城 楽
(論文題名)					
<h3>持続的競争優位の源泉としての 企業家精神強度に関する実証研究</h3> <p>-日韓総合商社の比較分析を中心に-</p>					
(内容の要旨)					
<p>本研究では、未来のグローバル社会における企業の競争力の源泉を理解する新たなパラダイムとして「企業家精神」という概念を導入した。まず、理論研究では企業の競争優位の源泉を巡る諸理論や先行研究を概観し、これを各研究における意義、限界などを踏まえ新たな理論モデルおよび仮説構築の基礎とした。</p> <p>理論モデルとしては、企業家精神を測定可能な現象と捉えたモリス (M.H Morris) の提言をベースに、リスクテキング、革新性、意志力からなる新たな企業家精神強度モデルを構築した。それを用い、組織としての企業家精神強度を測ることで企業の競争力との関係を解明するのに取り組んだ。</p> <p>実証研究の対象としては、未来型企業で、かつグローバル企業の典型とも言われている総合商社業界を選び、今までの日韓の総合商社業界の比較研究とは異なる新たな物差しでの企業間の競争力の差を明らかにすることを試みた。「企業家精神強度が高ければ、企業の競争力は高まる」という仮説を構築し、その検証においては、公開資料(新聞、財務諸表など)を用いて、統計的な手法により分析を行った。その結果、以下のことが明らかとなった。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 日韓の総合商社を対象に実証研究を行った本研究では、統計的な手法により企業の競争力と企業(組織)の企業家精神強度との間に強い相関関係があることが立証された。</li><li>・ 同一業界に属する各企業は、“企業家精神強度” — “競争力” の二軸によるポジショニングが活用でき、現在の競争力の位置づけや競争力を高めるための今後の戦略、マネジメントの方向性を示す手段として役に立つと考えられる。</li><li>・ 新企業家精神強度モデルによる日韓の総合商社業界を比較したところ、日本の旧財閥系の総合商社は“高企業家精神” — “高競争力” の構造が観察された。一方、韓国の総合商社は日本の総合商社に比べ企業家精神強度が全体的に低く、しかも十分な競争力に繋がっていないことから、今後マネジメント面での工夫が必要であることが示唆された。</li></ul>					